好きです！にしわき わたしのふるさと

心紡いで　彩り豊かな人財の育成

～誰もがふるさとに誇りと愛着を持ち、輝いて生きる　共生社会の実現に向けて～

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

地産地消・見て聞いて考える学習――

学校給食を通じた「食育」活動の推進

学校給食法では、学校給食を教育の一環に位置付けています。西脇市立学校給食センターでは、子どもたちの空腹を満たすだけでなく、学校給食を通じて、将来にわたって健康に生きていくための「望ましい食習慣」が定着するよう、食育活動を推進。見たり体験したりしながら食べることの重要性が理解できるよう、さまざまな取り組みを行っています。

▲調理員に給食の工夫や調理の苦労を質問する子どもたち

栄養教諭による献立作成

西脇市に在籍する栄養教諭は、学校給食の管理と学校での食に関する教育を一体的に行っています。例えば、地元で採れた旬の野菜を使った献立を提供することで、子どもたちに日本の四季を感じてもらうことや、行事食で文化や歴史を学ぶことに取り組んでいます。また、子どもたちの成長に必要な栄養素などを考えながら、バランスのよい献立づくりに努めています。

現場を見て・体験する学習

「食」に関する授業では、栄養教諭が各校に赴いて授業するだけでなく、子どもたちによる給食センターの施設見学も積極的に行っています。厨房の見学や調理工程が分かるDVDの鑑賞に加え、調理員に直接質問したり、大きな調理器具を実際に持って動かしてみる学習をしたりしています。このような体験学習によって、施設見学の後には、給食を残さずしっかり食べる子が増えている傾向にあります。

生徒考案献立を提供

子どもたちが考えた献立を実際に提供する、新しい取り組みも始まっています。

昨年度には、黒田庄中学校の生徒が栄養教諭の助言を受けながら考えた献立を、全学校園で提供。キャリア教育とも連携した食育活動も展開しています。

◆問合せ
学校給食センター（☎22-6041）

心のスケッチ 156　人権教育課コラム

風に吹かれて

連日、ウクライナ侵攻に関する痛ましいニュースが報道されています。ニュースを目にするたび、私はアフリカの熱く乾いた風を思い出します。

2004年7月の夜、私は世界最長のナイル川を北に向かうフェリーにいました。知らないことを自分の目で見たいという好奇心に突き動かされ、原付バイクで世界一周の旅に出発。その道中、南アフリカ共和国からアフリカ大陸を1年かけて北上し、大陸最後の国・エジプトとスーダンの国境目前にたどり着いていました。スーダン北部は、灼熱の砂漠地帯。バブーンと呼ばれる砂嵐に遭遇し、バイクが運転できなかったり、ナイル川の生水を飲まざるを得ず全身に発疹が出たり、気温50度を超える砂漠の悪路で荷物満載のバイクを押しながら進んだり。自分が選んだ旅とはいえ、試練が続く毎日でした。

さて、スーダンからエジプトに向かうには陸路がなく、船旅となりました。狭い船内の客室は、人と荷物でごった返し。熱風が吹く甲板にまで乗客が溢れていました。私は甲板組となり、たくさんの荷物とスーダンの乗客たちに四方を囲まれる中、何とか寝場所を確保しました。するとすぐ、隣人から「どこから来たんだ」「スーダンは好きか」と親しげに声を掛けられました。話しているうちに、彼らは紛争地から避難する難民家族だということが分かりました。

当時のスーダンは混沌としていました。南部では独立を訴える内戦。西部では世界最大の人道危機といわれるダルフール紛争。そして、東部では国境紛争から逃げてきた隣国・エリトリアからの難民問題。「僕たちは、ただ家族で平穏に生きたいだけなんだ。ひとまずエジプトへ逃げるけど、その先は何も分からない…」

ナイル川に吹く風が、とても息苦しく感じられました。甲板の上で私の周りにいるのは、今を生きるのに必死な人たちばかりでした。生まれた土地で生活する権利や安全に生きる権利を奪ってしまう争い。人権とは何なのか。今も考え続けています。

西脇市消費生活センター

☎22-3111（防災安全課内）

No.198

18歳（成人）からできること、できないこと

民法改正に伴い、令和4年4月1日から成人年齢が20歳から18歳に引き下げられます。何が変わるのか、注意点は何かなどを確認しましょう。

18歳になったらできること

- 親の同意なしでの契約
  スマートフォンやローン契約
  アパートの賃借、クレジットカードの作成
- 10年間有効のパスポートの取得
- 公認会計士などの国家資格の取得

20歳にならないとできないこと

- 飲酒、喫煙
- 公営ギャンブル（競馬、競輪、オートレース、競艇の投票券の購入）

契約時の注意点

次の3点を自分に問いかけてみましょう。
①本当に今、必要なことか
②契約内容や仕組み、条件を理解しているか
③契約後は容易に解約できないと理解したか

＊　＊　＊　＊

少しでも怪しい話だと思えば、友人や先輩の誘いでもきっぱり断るのが大人です。困ったときは消費生活センターへ相談しましょう。

あぐりコラム 36

西脇市では黒田庄和牛や山田錦、イチゴなど全国に誇れる地域食材が生産されており、さまざまな農業振興施策を推進しています。このコラムでは、本市の農業に関する旬な情報をお伝えします。
■問合せ　農林振興課（市役所内線2031）

市内産農産物もジャムやお菓子などに変身

「アップサイクル」でフードロスをお宝に！

持続可能な社会の実現に向けた新しい概念として、「アップサイクル」が注目を集めています。アップサイクルとは、本来なら捨てられてしまうものの素材を生かし、新しい価値や魅力を生み出すこと。見せ方を工夫することで、廃棄物を生まれ変わらせることができます。

食に関していうと、フードロス問題の提起に伴って、規格外の青果や加工処理の最中に発生する端材等の廃棄農産物を、ジャムや野菜スナック、シリアルなどの新たな加工食品として生産・販売する事例があります。西脇市内でも、形が崩れたイチゴをジャムやジュレ、クッキーにしたり、農産物を乾燥野菜にしたりするアップサイクルが進んでいます。また、食から食へのアップサイクルのみならず、酒かすやみりんかすを化粧品の原料に、野菜やお米をクレヨンにするなど、アップサイクルは日用品のほか、さまざまな分野に広がっています。

ぜひ、アップサイクルによって生まれた商品を手に取り、一緒に循環型社会の実現を目指しませんか。

市長からの手紙 99

――西脇を元気に!!――

西脇市長　片山象三

こころが元気になる応援に感謝！

3月15日、西脇市民の方から5千万円のご寄付をいただきました。これほどの額を現金で受け取らせていただいたのは初めてのことです。「お金の重みを感じながら受け取ってほしい」と、現金で持参。ご寄付を受け取らせていただいたとき、その重さとともに、ご寄付くださる方の熱い思いも感じることができました。

ご寄付いただいた竹内さんご夫婦は70歳代。『新型コロナ感染症の影響を受ける西脇病院に、西脇市が補正予算』の新聞記事を見られたのがきっかけだそうです。西脇病院は「トリアージ外来」や「コロナ感染患者病床」にも対応しながら、地域の方々の命と健康を守るために強い使命感を持って闘っています。竹内さんからは、新型コロナが大変な中でも、献身的に患者さんに対応する病院スタッフ、ワクチン接種などコロナ関連で奮闘する市職員を褒めていただきました。

「残りの人生は年金で暮らしていける。喜んでもらえることがうれしい」とのお言葉に、竹内さんご夫婦が心から西脇市を応援してくださることを感じました。厳しい状況の中で頑張る病院スタッフや市職員は、お二人から「金額以上の勇気」をいただき、「ころが元気になった」と思います。心から感謝申し上げます。皆様とともに元気なまち西脇を創ってまいりましょう。

地域医療を守る西脇病院の「トリアージ外来」は開設から2年が経過